2023年3月19日　朝 礼 拝 順 序 (午前10時半)　(№12)

司式　杉山昌樹牧師

前　奏　奏楽　森永美保姉

開 会 招 詞　ヨハネの黙示録19章5節

＊ 賛 美 歌　２８:１（ソングシート）

1. 主よ、命の言葉を　与え給え、我が身に。我は求む、ひたすら 主より給う御糧を。

アーメン

＊ 開 会 祈 祷

罪 の 告 白　祈祷書2　罪の告白①

神よ、わたしを憐れんでください。御慈しみをもって。深い御憐れみをもって、背きの罪をぬぐい去ってください。わたしの咎をことごとく洗い、罪から清めてください。わたしは咎のうちに産み落とされ、母がわたしを身ごもったときも、わたしは罪のうちにあったのです。わたしを洗ってください。雪よりも白くなるように。神よ、わたしの内に清い心を創造し、新しく確かな霊をさずけてください。救いの喜びを再びわたしに味わわせ、自由の霊によって支えてください。主よ、わたしの唇を開いてください。この口は、あなたの賛美を歌います。　主イエス・キリストの御名によって。アーメン。　(詩編51)

罪の赦しの宣言

十　戒　祈祷書4

1. あなたは、わたしのほかに、何者をも神としてはならない。
2. あなたは自分のために刻んだ像を造ってはならない。それにひれ伏してはならない。それに仕えてはならない。
3. あなたは、あなたの神、主の名を、みだりに唱えてはならない。主は、み名をみだりに唱える者を、罰しないではおかない。
4. 安息日をおぼえて、これを聖とせよ。
5. あなたの父と母を敬え。
6. あなたは殺してはならない。
7. あなたは姦淫してはならない。
8. あなたは盗んではならない。
9. あなたは隣人について偽証してはならない。
10. あなたは隣人の家をむさぼってはならない。隣人の妻、またすべて隣人のものをむさぼってはならない。　(出エジプト20、申命記5)

＊ 賛 美 歌　２８：２（ソングシート）

2. ガリラヤにて 御糧を分け給いし　我が主よ、今も活ける言葉を　与え給え　豊かに。アーメン

公 同 の 祈 祷　6　ニケア信条

我らは、唯一の全能の神、天と地と、すべて見えるものと見えざるものとの創造者を信ず。我らは、唯一の主、神の独り子、イエス・キリストを信ず。主は、あらゆる世のさきにみ父より生まれ、神よりの神、光よりの光、造られずして生まれ、み父と同一の本質にいます真の神。万物は彼によりて造られた。主は、我ら人間のため、我らの救いのために天より降り、聖霊によって処女マリアより受肉して人となり、我らのために、ポンテオ・ピラトのもとに十字架につけられ、苦しみ

を受け、葬られ、聖書に従って三日目によみがえり、天に昇りみ父の右に座し、生ける者と死ねる者とを審くために、栄光をおびて再び来たりたもう。その御国は終わることがない。我らは、生命の与え主にして、主なる聖霊を信ず。聖霊はみ父と御子とより出で、み父と御子とともに礼拝され、あがめられ、預言者を通して語りたもう。我らは、唯一の聖なる公同の使徒的教会を信ず。我らは罪の赦しのための、唯一の洗礼を告白す。我らは死人のよみがえりと、来たるべき世の命とを待ち望む。アーメン。

献　　金　　（黒）教会活動（赤）中会伝道　　70

今献ぐるそなえものを　主よ　清めて受けたまえ　アーメン

ジュニア礼拝

聖　書　朗　読　　詩編25編4－12節（旧約聖書855頁）

ヨハネ9章35－41節（新約聖書186頁）

説　教・祈　祷　「イエスの道」杉山昌樹牧師

＊ 賛　美　歌　３３:１，４

1. 天なる喜び こよなき愛を　携え降れる 我が君イエスよ　救いの恵みを あらわに示し、賤しきこの身に 宿らせ給え。

2. 命を与うる 主よ、とどまりて　我らの心を とこ宮となし　朝に夕べに 祈りをささげ　たたえの歌をば 歌わせ給え。アーメン

＊ 主　の　祈　り　　祈祷書1

天にまします我らの父よ
願わくは御名をあがめさせたまえ
御国を来たらせたまえ　御心の天になるごとく 地にもなさせたまえ
我らの日用の糧を 今日も与えたまえ
我らに罪を犯す者を我らが赦すごとく 我らの罪をも赦したまえ
我らを試みに会わせず 悪より救い出したまえ
国と力と栄えとは 限りなく汝のものなればなり　　アーメン。

＊ 頌　　栄　　６７

主イエスのめぐみよ、ちちのあいよ、みたまのちからよ、あぁみさかえよ。アーメン

＊ 祝　　祷

後　　奏　　（黙祷）

報　　告 司会門脇陽子長老・受付門脇献一長老（次週：古澤純一・門脇陽子長老）

本日　受付　１階：若月学・加藤良明執事　２階：古澤迪子執事 ／ZOOMホスト・録音：雨宮信

次週　受付　１階：大日南信也・藤井牧子執事　２階：大日南隆夫執事　／ZOOMホスト・録音：森川莞太

ヨハネ9：34－41　「イエスの道」

道であり光

今日の説教題は「イエスの道」としました。もちろん比ゆ的な意味で、生き方ということです。しかも、それはイエス様がこう生きた、と言ことではなく、むしろ、わたしたちがイエス様と出会う生き方という意味です。今日の聖書の中心にあるのが、全くこの意味でイエス様との出会いであるからです。そこで決定的なことが起きています。その決定的なことはしかし、私たちにもまた、おきていることです。それで、今日の所を読むためのカギの言葉を一つご紹介します。それは同じヨハネによる福音書の6：29にあるイエス様の言葉です。「神がお遣わしになったものを信じること、それが神の業である」。この神の業が今ここにある、それを確かめたいのです。

今ここで裁きが

それでさっそく、神の業、ということですけれども、それは、裁きという形で現れます。そういいますとぎょっとされるかもしれません。ほかでもない、わたしが、そして皆さんもまた、裁かれる、ということです。何でですか、先生大丈夫ですか、と思われるでしょうか。しかし、今日の聖書にははっきりと「私がこの世に来たのは裁くためである」と書いてあります。これはイエス様が言われた言葉です。さらに言えば、イエス様と出会うということは、このイエス様の裁きに出会う、ということです。その場合に、イエス様の裁きは必ずしも、怖いものではありません。むしろ、この裁きにおいて新しく生き直していく、そのような意味での裁きです。見えないものが見えるようになる、そのような意味での裁きです。そして、わたしたちは、いずれにしても、このところでイエス様の前に立ちはだかっているように見える、ファリサイ派の人たちと同じように、罪のあるもの、目の見えないものであるということもまた、重要です。今日の最後の言葉、「あなたたちの罪は残る」。これを、ダメな頭でっかちのファリサイ派、イエス様に逆らう反動ユダヤ人ども、と見てしまってはいけないのです。むしろ、これは私だ、と私自身襟を正す思いを持って受け入れたいと願っているのです。

盲伝センター

そのような思いに至った理由が一つあります。それは、母教会である静岡教会での思い出です。今日の聖書は、本来ですと9章の始めから一続きです。そこで、イエス様と弟子たちが、道端で物乞いをしていた盲人を見た、というところから始まっています。実は、このところが、静岡教会に集っておられた盲人のキリスト者の方たちが、深く愛する箇所であったという事実です。それも、単に盲人が癒される出来事だから、ですとか、ご自身の身の上に、この聖書のような奇跡的がおこるかもしれない、といった期待によるものではない、もっと別の理由で、愛しておられたのだと今は思います。盲人の方たちがこの個所を愛しておられた、その理由は、このところで描かれているイエス様との出会いの大切さを、深く受け止められていたのではないか、と今このところを読みながら、改めて思わされています。このような言い方が良いかどうかわかりませんが、少なくともあの頃の私よりも、静岡教会に集っておられた盲人信徒の方たちは、このところを自分のこととして読んでおられたのではないか、今はそのように思われるのです。

盲人である理由？

そのようにしていわば自分事としてこの言葉を読む、ということ場合に、どうしてもはずせないことばがあります。それは、3節の言葉です。今日の個所からはかなり遠いのですが、まずは、その3節の言葉をもう一度読むことから始めます。「イエスはお答えになった。「本人が罪を犯したからでも、両親が罪を犯したからでもない。神の業がこの人に現れるためである。」。これは、弟子たちの少々意地の悪い質問に答えた言葉です。この時代、あるいは今もひょっとしてそのような考え方があるのかもしれませんが、悪いことの背後に、その人の責任を見る、というような見方がありました。これはヨブ記に登場します友人たちの考え方と同じです。すなわち、ヨブは全く思いがけず災難に見舞われたのですが、友人たちは、そうはいってもヨブにも何か悪いところがあるだろう、という前提に立ってしか物事を考えられない、というすれ違いがありました。同じように、この時の弟子たちも、盲人には、そのようにして生まれて来る理由があるのではないか、と考えたようです。しかし、イエス様はそれを否

定しておられます。この人が盲人であるのは罪の結果ではない、はっきりとそのように言われています。そして問題は、このような盲人に対するある固定的な思い込みです。盲人は、問題があるもの、私はそうではないもの、という思い込みです。

神の業が現れるため

それと直接関係するのですが、もう一つ確認したいのは「神の業がこの人に現れるため」という言葉です。この言葉を読む場合に、これは盲人のための言葉、として読むのはおそらく違っています。眼が見えない、という問題を抱えている可哀そうな盲人の人に、神様の業が起きて、目が見えるようになって、それでよかった、というようなことではないのです。むしろ、ここで神の業、という場合それは、まずはこの盲人に、特別な恵みがあらわれるということですが、それだけではありません。むしろ、「神の業がこの人に現れるため」という言葉は、特別に積極的な意味を持っています。すでに最初に鍵の言葉として、神の業とは何か、という御言葉をお読みしました。それは、「神がお遣わしになったものを信じること」でした。イエス様と出会うことです。そして、これは、ただ盲人だけに必要なことではなく、むしろ、私たちみんなにとって必要なことです。盲人であろうとなかろうと、まず必要なのは、イエス様に対して目が開かれることです。イエス様と出会うことです。しかし、その邪魔をするのが、目が見えているという意識です。今日の聖書の最後の所、40、41節では、ファリサイ派の人たちが、イエス様の言葉を聞いて、憤る様子が描かれています。イエス様は「見えるものは見えないものになる」と言われました。それを聞いて、「それでは我々も見えないということか」と言った、とあります。もちろん、そうではない、と言いたいのです。

自分は見えている？

恐らく彼らの中には、自分たちは二重の意味で、ちゃんと見えている、という思いがあったのです。一つは文字通り、視力があるという意味です。そして、そのようにして視力があるものは、物事の理解、この場合には、神様に対する信仰、聖書の理解においても、ちゃんとわかっている、その意味で見えている、と強く思っていたようです。今日の途中の議論を拾いますと、彼らは、自分たちはモーセの弟子だ、と主張していました（28節）。聖書をよく知っていると言いたいのです。聖書をよく読んで、イスラエルの歴史をよく知っていて、神様の御心もよく知っている、といいたいのです。ところが、彼らは、それに続いて「あのものがどこから聞きたのか知らない」（29節）というのです。「あのもの」とは、当然、イエス様です。神様がご自身の業をなすために遣わしたのがイエス様である、これが本当のことです。しかし、彼らは、自ら、このような構図が全く見えていないと威張って言っているのです。まさにイエス様が、そのことを指摘されているとおりです。そして、わたしたちがいつでも問題にしなければならないのはこのことです。

イエスとはだれかを訪ねられる

ですから、この時、あの盲人がたどった道は、わたしたち信仰者であればだれでも当てはまるはずなのです。この盲人は、最初にイエス様と出会った時、特に何かを願ったのではないようです。ただ、あとで周りの人たちから目が見えるようになった理由を尋ねられて「イエスと言う方が、土をこねて私の目に塗り、シロアムに行って洗いなさいと言われました」（11節）と話していますから、最小限のやり取りはあったということがわかるだけです。ここではっきりしますのは、イエス様との出会いは、まずイエス様から来る、ということです。しかし、この段階では彼は、イエス様がどのような方なのか、イエス様がどこにおられるのか、まるで知らない状態です（12節）。しかし、この後、町の人たちが、この目が開かれた盲人をファリサイ派の人たちの前に連れて行って、何度も質問を受ける中で、彼の理解は段々に深まっていくのです。ファリサイ派の人たちは、イエス様が癒しをしたという事実を前にしても、あれは安息日を守らないから、それは神様の力によるものではない、と言い張る人、一方でやはりこのような業は神様からのものではないか、と言う人もいる、というように意見が割れてしまいます。そこで、あの元盲人に「あの人をどう思うのか」（17節）と尋ねたところ、彼は「あの方は預言者です」と答えています。ここで一歩、彼の理解は進んでいます。イエス様に不思議な力が働いていることが分かったのです。

神のもとから来た

その後、もう一度しつこく、どうして目が見えるようになったのか、と尋ねられた元盲人は、「何でまた聞くのか、あの人の弟子になりたいのか」（27節）と皮肉を言います。すると、ファリサイ派の人々は、「お前はあのものの弟子だが、我々はモーセの弟子だ。我々は、神がモーセに語ったことは知っているが、あのものがどこから来たのかは知らない」（28，29節）と答えたのはすでにお話しした通りです。我々は聖書は良く知っている、しかし、イエスなんか知らない、というのです。それに対して、あの元盲人は、立派なキリスト論を展開しています。「あの方がどこから来たのか知らないとは不思議ですね。神様は悪人の言うことは聞かれない。けれども、み心を行う人の言うことは聞かれる。私にしたようなことは今まで聞いたことがない。この事実がある以上あの人が神のもとから来たのは確かだ」。このようにして、彼の中でイエス様に対する理解、特にイエス様がどこから来たのかについての理解が明らかに深まっています。ところが、この言葉を聞いたファリサイ派の人々は、怒って彼を外に追い出してしまいます。

イエスとの出会い

しかし、まさにそのようにして追い出されたエルサレムの街角で、彼はもう一度イエス様と出会います。或いは、イエス様が彼を探し出した、このように見ることも出来ます。そして、彼に言います。「あなたは人の子を信じるか」。この場合の「人の子」は、イエス様がご自身について「自分が人間であることを強調するときに」よく使われる言葉ですが、もう一つの意味として、「神さまから遣わされた人」という意味を持ちます。神様から遣わされ、神様と出会わせてくれる人です。この元盲人は、「主よ、その方はどんな人ですか。その方を信じたいのですが」と答えています。神様から派遣された人を信じたい、その人と信頼関係を持ちたい、と彼は即座に答えます。それに対してイエス様は、「あなたはその人をもう見ている」と答えられます。まさに、神様から派遣された人、神さ様を指し示す人、あなたが神様を見ることができるようにする、その人は、この私だ、と宣言されています。元盲人はひれ伏し、「主よ信じます」と告白します。このようにして、盲人は、完全に、イエス様と出会いました。そして、イエス様と出会うことによって、神様を知るものとされました。それが、このところの絶対的な意味で、「見える」ということです。イエス様を見出し、神様を見出すこと、それが究極的に「見える」ということです。恐らく静岡教会の盲信徒の方たちはこのようにしてイエス様と出会っていたのです。

イエスの道

わたしたちはいつでも、このようにして、私たちを正しくさばき、そしてご自身と出会わせてくださるイエス様の前を歩みます。イエス様の正しい裁きの前を歩みます。そのことによって、わたしたち自身は見えないものですけれども、見えるものに変えていただけるのです。たとえ、途中で道を誤っても、また、見えるものに変えていただくのです。私たちは、そのようにしてイエス様の道を進んでいきたいのです。

祈り

父なる神さま、あなたは主イエスを、世の光として、わたしたちがあなたの業に連なるために派遣してくださいました。そして、あなたの業とは、わたしたちがあなたの遣わした方である主イエスを信じることでした。そのみ旨の通りに、あなたは今も私たちをこの信仰へと招いてくださっておりますから感謝します。どうぞ、わたしたちが、いつもイエス様によって目を開いていただけますようにお願いします。主イエス・キリストのみ名によって祈ります。アーメン。